

科目区分	専門基礎分野			科目番号	0410	曜日時間	
授業科目	薬理学						
単位数	1 単位	時間	30 時間	開講時期	2年次前期	授業形態	講義
担当教員	大仁田 康子						
授業目的	薬物の基本知識と生体内での作用機序を理解し、臨床での薬物療法の意味を学ぶ。						
授業目標	1. 薬物を用いて治療する意味や基本的知識を学ぶ。 2. 疾病治療薬として用いられる薬物の作用と副作用及び薬物中毒について学ぶ。 3. 安全な薬物の取り扱い方法を学ぶ。 4. 薬物が生活にあたる影響について学ぶ。						
授業の内容と方法	回	授業内容	授業方法	時間	担当	備考	
	15	薬理学とは 薬物治療の目指すもの、薬の身体への影響 薬効果に影響する因子 抗感染症薬 抗菌作用と耐性、抗菌薬について、 感染症治療薬における問題点 抗がん薬 抗がん作用の仕組み、抗がん薬の種類 免疫治療薬 免疫抑制薬 抗アレルギー薬・抗炎症薬 抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 末梢での神経活動に作用する薬物 自律神経系（交換神経作用薬と副交感神経作用薬と筋弛緩薬） 中枢神経系に作用する薬物 全身麻酔薬、催眠薬と抗不安薬、抗精神病薬、抗うつ薬、 パーキンソン治療薬、抗てんかん薬 心臓・血管系に作用する薬物 抗高血圧薬、狭心症治療薬、抗不整脈薬、利尿薬、 脂質異常症、血液に作用する薬物 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 気管支喘息治療薬・消化器系に作用する薬物、 生殖器系に作用する薬物 物質代謝に作用する薬物 ホルモンおよびホルモン拮抗薬、治療としてのビタミン 皮膚科用薬・眼科用薬 炎症性皮膚疾患 救急の際に使用される薬物 救急蘇生使用時の薬物、症状別使用薬物、急性中毒薬物治療 漢方薬 消毒薬(低水準消毒薬、中水準消毒薬、高水準消毒薬) 輸液剤・輸血剤	講義	30	大仁田 康子		
終了後課題							
評価計画方法	筆記試験・授業態度						
テキスト参考図書	吉岡 充弘ほか：系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[3] 薬理学【電子版】，医学書院 井上 智子ほか：系統看護学講座 別巻 臨床薬理学【電子版】，医学書院						
実務歴有	薬剤師						
講義への反映	臨床経験を活かし、薬理学を教授する。						
備考							